

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 顎口腔腫瘍病態学教育研究分野 氏名 乾 明成
指導教授氏名	小林 恒
論文審査担当者	主 査 石橋 恭之 副 査 今泉 忠淳 副 査 横山 良仁
<p>(論文題目) Teeth and physical fitness in a community-dwelling 40 to 79-year-old Japanese population (40 歳から 79 歳にかけての日本人地域住民における歯と身体機能)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、40 歳以上の地域住民を対象として、歯数減少と全身骨格筋肉量 (SMM) や運動機能との関連について明らかにすることを目的とした。</p> <p>対象は、2013 年度岩木健康推進プロジェクト健診参加者のうち、40 歳以上で、悪性腫瘍等の既往歴、欠損値のある者を除外した 552 名である。年齢、性別、教育年数、配偶者の有無、生活習慣および既往歴を、自己記入式の質問票、および個人面接で確認した。口腔内診査は歯科医師により、現在歯数と咬合支持域を測定した。SMM は体組成分析装置を用いて生体インピーダンス法により測定し、10m 歩行速度、握力を測定した。現在歯数と SMM、10m 歩行速度、握力との関係について、SMM、10m 歩行速度、握力を従属変数とし、現在歯数、年齢、BMI、糖尿病・高血圧の有無、血清アルブミン濃度、喫煙習慣、飲酒習慣、配偶者の有無、教育年数を説明変数として、重回帰分析により分析した。咬合支持域と SMM、10m 歩行速度、握力との関係を共分散分析により交絡因子の影響を調整して分析した。</p> <p>男性は女性に比べ 10m 歩行速度は速く、握力、SMM および BMI は高値を示していた。糖尿病、喫煙習慣、飲酒習慣、および配偶者の有無は、男女間で有意差を認めた。重回帰分析では、現在歯数は 10m 歩行速度 (女性 $p < 0.01$) 及び SMM (男性 $p < 0.05$) と有意な関連を示し、共分散分析では 10m 歩行速度が咬合支持域 (女性のクラス A-C 間) と相関していた。</p> <p>本研究において、女性の歯喪失は握力と関連しなかったが 10m 歩行速度の危険因子であった。一方、男性では、歯数と 10m 歩行速度に相関関係はみられず、SMM との間に有意な正の相関を認めた。女性では歩行速度という QOL に大きく影響する機能の低下がみられた点で、歯数の喪失を予防することが重要と考えられた。</p> <p>本研究は、中年期の早期から口腔内管理を行うことにより、歯数減少を抑制し、全身骨格筋肉量 (SMM) や運動機能を維持できることを示した意義ある研究である。さらに、本論文は下記の学術雑誌にすでに受理されている。以上から、本研究は学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Clinical Interventions in Aging (2016:11, 873-878)